



静岡県  
ファルマバレープロジェクト  
第3次戦略計画  
(第1次改訂版)

平成27年7月

静岡県

## 目次

1	策定（見直し）の趣旨	1
2	基本理念	1
3	基本方向	2
	戦略1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”	4
	戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”	7
	戦略3 健康サービスが充実し高次都市機能が集積した“まちづくり”	9
	戦略4 世界展開の推進	11
4	推進方針	13
	(1) 推進体制の充実	
	(2) 広報活動の充実	
	(3) 弾力的な推進	
	ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画 構成概要	14
参考1	戦略・戦術ごとの具体的な展開	15
	戦略1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”	15
	戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”	17
	戦略3 健康サービスが充実し高次都市機能が集積した“まちづくり”	19
	戦略4 世界展開の推進	21
参考2	ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画検討委員会委員	22
	ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画検討経過	24
参考3	ファルマバレープロジェクト第2次戦略計画評価報告書の概要	25
参考4	ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画第1回中間評価の概要	27
参考5	ファルマバレープロジェクトのあゆみ	29

# 1 策定（見直し）の趣旨

ファルマバレープロジェクトは、これまで、平成 12 年度に策定した「富士山麓先端医療産業集積構想（富士山麓ファルマバレー構想）」、「第 1 次戦略計画（平成 14 年度～18 年度）」及び「第 2 次戦略計画（平成 19 年度～22 年度）」に基づき事業を推進し、世界トップクラスのがん診療拠点である静岡がんセンターを中心に、先端医療の実践と高度な研究開発を展開するとともに、（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターを中核支援機関に、我が国でも稀な、医療機関を中心とした産業クラスターの形成を進めてきました。

現在は、プロジェクトの一層の推進を図るため、「第 3 次戦略計画（平成 23 年～32 年度）」に基づき事業を推進しています。

第 3 次戦略計画では、3 年毎に事業の進捗状況の中間評価を実施するとともに、その評価や社会経済環境の変化に応じて、施策や事業の内容・進め方等を必要な都度見直すこととしております。

当初の計画には盛り込まれていない長泉高校跡地を活用した新たな拠点施設（以下、新拠点施設という。）の整備を平成 25 年度にスタートする中で、中間評価の結果や社会経済環境の変化を踏まえ、医療健康産業の更なる集積、拡大と、プロジェクトが国内・アジアを牽引するクラスターとしてステップアップすることを目指し、戦略計画の見直しを行いました。

# 2 基本理念

プロジェクトの基本理念は、引き続き、「**世界一の健康長寿県の形成**」とします。

プロジェクトでは、これまで、この理念を達成するため、「**健康増進・疾病克服**」と「**県民の経済基盤の確立**」を両輪として施策を推進してきました。

今後、「健康増進・疾病克服」については、静岡がんセンターを中心に世界レベルの研究開発をより一層充実し、患者・家族のために臨床現場への応用を図ります。

「県民の経済基盤の確立」については、地域企業の医療健康分野への参入や、市町のプロジェクト参加などの動きを発展させて、患者や臨床現場のニーズ（ベツトサイドニーズ）に応える製品や技術を開発し、国内・世界に販売することにより、医療の質の向上につなげます。

また、今後とも計画の推進に当たっては、プロジェクトの開始時から関係者の行動規範となっている「ファルマバレー宣言」を引き続き関係者が共有し、“医療・健康”をキーワードに、「住んでよし、訪れてよし」、「生んでよし、育ててよし」、「学んでよし、働いてよし」の我が国のモデル地域となることを目指します。

## 《ファルマバレー宣言》

『私たちは、患者・家族の視点に立ち、  
叡智を育み結集し、  
共に病と闘い支えあい、  
健康社会の実現に貢献することを宣言します。』

### 3 基本方向

ファルマバレープロジェクトは、これまでの始動期（第1次戦略計画期間）、成長期（第2次戦略計画期間）を経て、第3次戦略計画期間の10年間で自律的發展に向けた期間になることを想定しています。

第3次戦略計画では、“ものづくり”、“ひとづくり”、“まちづくり”、“世界展開”の4つの視点から、富士山麓において、医療機関を中心とした「医療健康産業クラスターの形成」を図ります。

また、県では、本プロジェクトに加えて、中部地域を中心としたフーズ・サイエンスヒルズプロジェクト、西部地域を中心としたフォトンバレープロジェクトにも取り組んでおり、今後、各プロジェクト間の連携も深めてまいります。

#### 【ファルマバレーの10年後の姿と取組の方向】

##### ○ものづくり

医療健康産業を中心とした産業構造に転換し、地域企業が元気になり、地域経済の持続的な発展がなされています。

地域企業の参入や起業が活発に行われ、プロジェクトが関わる製品化が拡大することにより、医薬品・医療機器合計生産金額が倍増するとともに、高品質で機能性等に優れた製品やサービスが、世界市場で評価されています。

これに向け、静岡がんセンターを始め、プロジェクトに参画する大学や研究機関は、患者・家族及び医療従事者のニーズに基づいた最先端の研究開発を、テーマの重点化や交流の活発化を図ることで、より一層推進します。

また、ファルマバレーセンターが中心となり、新拠点施設を活用して、地域企業の参入や研究成果を活用した製品化、世界市場を含めた販売の支援を行います。

##### ○ひとづくり

患者・家族が満足できる質の高い医療サービスや、専門性の高い医療技術を提供する人材、真に医療現場が必要とする製品を創出する優秀な人材、ニーズ、シーズ等を目利きし事業化を支援していく人材が、数多くこの地域で活躍しています。

これに向け、静岡がんセンターが実践してきた、患者・家族の視点に立った質の高い医療従事者の育成に加え、県内への医療系大学等の設置について検討を進めます。

また、地域の大学、企業等との連携を進め、コーディネータや研究者、技術者、経営者など、プロジェクトに関係する産業支援人材、産業人材の育成を図ります。

## ○まちづくり

大企業から中小企業まで、数多くの医療健康分野の企業や研究所がクラスター状に集積するとともに、健康サービスが充実し、高次都市機能が集積した、住む人も訪れる人も快適な魅力ある都市圏が形成されています。

これに向け、市町と協働して、医療・医薬品開発等の企業や研究施設の誘致等の取組を強化するとともに、健康サービスに係る企業の集積や、起業を目指す若者の流入促進を進めます。

また、コンベンション機能を活用し、人が集い、賑わう都市空間の創出を図るとともに、温泉や食材などの観光資源を組み合わせた健康サービスと癒しの提供など、健康をテーマとした地域づくりを進めます。

## ○世界展開

世界の基準を考慮した製品開発を行う地域企業が増大し、“Made in Mt. Fuji”の製品や仕組みが世界に広く行き渡っています。

また、人・モノ・情報が世界から集まるとともに、プロジェクトから生まれた製品、システムやノウハウが世界に広がるような、日本やアジアを牽引する医療健康産業クラスターのモデル地域（ハブクラスター）に成長しています。

これに向け、プロジェクトの先駆性を世界に発信し、地域企業の海外展開に向けた戦略的かつ世界標準の商品づくりを支援します。

また、ファルマバレーセンターの海外展開支援力を高め、販路開拓や海外クラスターとの連携を積極的に進めるなど、世界展開に向けた取組を充実します。

上記の10年後の姿を実現するため、以下のとおり、具体的な戦略を展開します。



富士山麓から世界へ！

## 戦略1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”

### 【基本方向】

＜10年度後の姿＞

- ・医療健康産業を中心とした産業構造に転換し、地域企業が元気になり、地域経済の持続的な発展がなされている。
- ・地域企業の参入や起業が活発に行われ、プロジェクトが関わる製品化が拡大することにより、医薬品・医療機器合計生産金額が倍増するとともに、高品質で機能性等に優れた製品やサービスが、世界市場で評価されている。

＜取組方向＞

- ・静岡がんセンターを始め、プロジェクトに参画する大学や研究機関は、患者・家族及び医療従事者のニーズに基づいた最先端の研究開発を、テーマの重点化や交流の活発化を図ることで、より一層推進します。
- ・また、ファルマバレーセンターが中心となり、新拠点施設を活用して、地域企業の参入や研究成果を活用した製品化、世界市場を含めた販売の支援を行う。

### 【数値指標】

項目	平成 23～ 25 年度	平成 26～ 29 年度	平成 23～ 32 年度
ファルマバレーセンターコーディネートによる共同研究実施件数(累計)	30 件 32 件	50 件	125 件
静岡の創薬プラットフォームを活用した医薬品開発件数(治験実施件数)(累計)	—	—	2 剤 (治験実施件数)
治験ネットワーク病院による年間の新規治験実施件数	130 件/年 145 件/年(平均)	150 件/年	150 件/年
ファルマバレーセンターによるがん領域の臨床研究支援件数(開始件数)	3 件(1 件/年) 5 件	6 件(1.5 件/年)	15 件(1.5 件/年)
ファルマバレープロジェクトによる事業化・製品化件数(累計)	18 件 19 件	32 件	80 件
医薬品・医療機器合計生産金額	8,400 億円(H25) 9,947 億円(H25)	1.4 兆円 (平成 29 年)	2 兆円 (平成 32 年)
医薬品製造業許可又は医療機器製造業登録新規取得事業所数(県内全域)、医療健康産業への異業種からの参入・第二創業した事業所数(累計)	15 事業所 32 事業所	28 事業所	80 事業所

平成 23 年度～25 年度は、上段が目標数値、下段が実績数値

## 【戦術】

### ○戦術1 研究開発の推進

研究開発について、医薬品、ロボット、医療機器・部品部材など、研究開発テーマの重点化を図るとともに、地域企業、入居企業等の交流を活発化することで、戦略的に推進していきます。

静岡がんセンターや県内外の大学、研究機関が連携し、創薬プラットフォームや治験ネットワークを活用し、医療につながる基礎研究成果を臨床に実用化させるトランスレーショナルリサーチ<sup>1</sup>の推進、医療現場のニーズを実現するためのニッチ技術<sup>2</sup>の開発及び大手企業との包括的共同研究協定等による製品開発の3つの視点による研究開発を推進します。



次世代シーケンサー(プロジェクトHOPE)



静岡がんセンター

<sup>1</sup> 大学などの研究室で発見された基礎的な知見や技術について、臨床応用の可能性を積極的に評価しなおして、臨床の場に使われるまでに育てること。基礎の場である大学等と実業との橋渡しをする研究。

<sup>2</sup> ニッチとは「隙間」を示し、「ニッチ市場」は、「潜在的なニーズがあるにもかかわらず、他の企業が気付かない（若しくは市場規模が小さいため採算が合わない）「隙間」となっている市場」を意味する。「ニッチ技術」は、このようなニッチ市場に参入し、高い市場シェアを確保し、収益を上げるための技術。



## ○戦術2 地域企業の参入・成長支援

これまでにファルマバレーセンターが構築してきた医療機器等の開発・販売支援のプラットフォームを、新拠点施設を活用して充実、強化し、地域企業等の参入及び患者・家族の視点に立つ製品開発を、入り口から出口までワンストップで支援していきます。

新拠点施設で企業の成長段階に応じた開発・生産の場を提供するとともに、戦略的な医療健康分野への異業種参入・第二創業や既存企業の規模の拡大、意欲ある者の起業を支援します。

また、県内医療機関等での使用の働き掛けや、販売会社、大企業とのネットワークの形成を通じて、製品化された医療機器の販売や部品、部材の供給の促進を図ります。



新拠点施設 完成イメージ



## 戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”

### 【基本方向】

<10年後の姿>

- ・患者・家族が満足できる質の高い医療サービスや、専門性の高い医療技術を提供する人材、真に医療現場が必要とする製品を創出する優秀な人材、ニーズ、シーズ等を目利きし事業化を支援していく人材が、数多くこの地域で活躍している。

<取組の方向>

- ・静岡がんセンターが実践してきた、患者・家族の視点に立った質の高い医療従事者の育成に加え、県内への医療系大学等の設置について検討を進める。
- ・地域の大学、企業等との連携を進め、コーディネータや研究者、技術者、経営者、など、プロジェクトに関係する産業人材、産業支援人材の育成を図る。

### 【数値指標】

項目	平成 23～ 25 年度	平成 26～ 29 年度	平成 23～ 32 年度
専門看護師・認定看護師資格の新規取得者数（県内全域）（累計）	149 人 160 人	200 人	500 人
ファルマバレープロジェクトによる産業人材の育成人数（富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム、経営者セミナー等）	144 人 198 人	151 人	480 人

平成 23 年度～25 年度は、上段が目標数値、下段が実績数値

## 【戦術】

### ○戦術1 質の高い医療人材の育成と研修システムの充実

患者・家族が安心して質の高い医療を享受できるよう、認定看護師などのコ・メディカルスタッフ<sup>3</sup>の育成に努めるとともに、大学等と連携してトレーニング指導者等の健康関連人材を育成します。なお、医師、コ・メディカルの確保を図るため、県内への医療系大学等の設置について検討を進めます。

また、多職種チーム医療<sup>4</sup>の取組を活用した医療人材の研修システムを構築するとともに、「がんよろず相談」などにより患者や家族の悩みや負担を和らげるケアの普及を図ります。



認定看護師教育の実施

### ○戦術2 医療現場のニーズを事業化する産業人材の育成

プロジェクトにおける新たな事業化・製品化を促進するため、ニーズとシーズ、医療者と企業、地域企業と大企業などを結びつける高度な目利きができる産業支援人材を育成するとともに、支援人材間のネットワークの強化を図ります。

また、患者・家族の視点や医療現場のニーズを理解し、実現することができる医療健康分野に精通した高度な技術者や研究人材及び経営者を養成します。



富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラムの実施

<sup>3</sup> 通例として、医師、歯科医師と協同して医療を行う、看護師を含む医療従事者（検査技師・放射線技師・薬剤師・理学療法士・栄養士など）の総称として用いられる。

<sup>4</sup> 患者に最善の治療とケアを提供するシステムの構築を目的として、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、ソーシャルワーカーなどによって構成され、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること。

### 戦略3 健康サービスが充実し高次都市機能が集積した“まちづくり”

#### 【基本方向】

##### <10年後の姿>

- ・大企業から中小企業まで、数多くの医療健康分野の企業や研究所等がクラスター状に集積するとともに、健康サービスが充実し、高次都市機能が集積した、住む人も訪れる人も快適な魅力ある都市圏が形成されている。

##### <取組の方向>

- ・市町と協働して、医療・医薬品開発等の企業や研究施設の誘致等の取組を強化するとともに、健康サービス等に係る企業の集積や、起業を目指す若者等の流入促進を進める。
- ・コンベンション機能を活用し、人が集い、賑わう都市空間の創出を図るとともに、温泉や食材などの観光資源を組み合わせた健康サービスと癒しの提供など、健康をテーマとした地域づくりを進める。

#### 【数値指標】

項目	平成 23～ 25 年度	平成 26～ 29 年度	平成 23～ 32 年度
企業立地件数（県内全域）	100 件/年 62 件/年(平均)	100 件/年	100 件/年
日ごろ生活を営んでいる範囲において、都市機能が充足していると感じている人の割合 (21 年度：52.8%)	60% 51.8%	60%	60%

平成 23 年度～25 年度は、上段が目標数値、下段が実績数値

## 【戦術】

### ○戦術1 医療健康分野の産業集積

工業団地や高規格幹線道路などのインフラの整備を促進し、富士山麓地域の工業団地等に、国内外から医療健康分野の企業や研究施設を積極的に誘致するとともに、大企業と中小企業との部品・部材等の供給などでの連携を促進します。

癒しやスポーツなど、健康サービス産業の振興や茶やワサビなど豊富な農林水産物を活用した機能性の高い製品開発など、医療健康クラスターとしての集積の拡大及び活性化を図ります。

起業を目指す若者等が活発に流入するよう、起業しやすい環境整備を進めます。



伊豆縦貫自動車道の整備

### ○戦術2 健康をテーマとした地域づくり

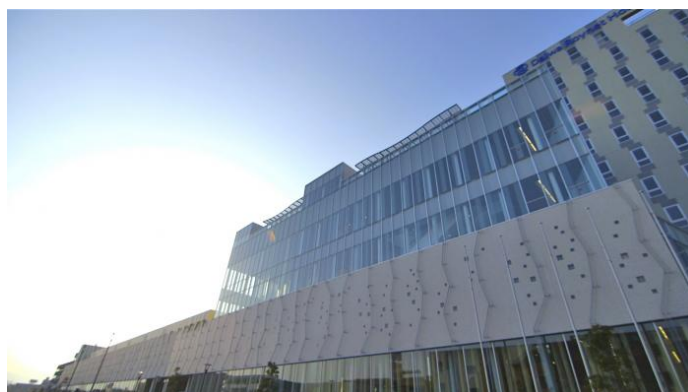
かかりつけ湯など、温泉や食材などの観光資源を組み合わせた健康サービスと癒しの提供や、市町の健康づくりプログラムの普及を支援するとともに、食育の推進を図り、健康をテーマとした地域づくりを進めます。



健康と癒しの宿「かかりつけ湯」

### ○戦術3 人が集まる地域づくり

プラサ ヴェルデ等を活用し、人が集い、賑わう都市空間の創出を図るとともに、世界文化遺産に登録された富士山の保全と活用や伊豆文学フェスティバルの開催などによる多彩な地域文化の振興及び芸術鑑賞の場の提供や創作の場の充実を図り、住む人も訪れる人も快適な魅力のあるまちづくりを進めます。



総合コンベンション施設「プラサ ヴェルデ」

## 戦略4 世界展開の推進

### 【基本方向】

#### <10年後の姿>

- ・世界の基準を考慮した製品開発を行う地域企業が増大し、“Made in Mt. Fuji”の製品や仕組みが世界に広く行き渡っている。
- ・人・モノ・情報が世界から集まるとともに、プロジェクトから生まれた製品、システムやノウハウが世界に広がるような、日本やアジアを牽引する医療健康産業クラスターのモデル地域（ハブクラスター）に成長している。

#### <取組の方向>

- ・プロジェクトの先駆性を世界に発信し、地域企業の海外展開に向けた戦略的かつ世界標準の商品づくりを支援する。
- ・ファルマバレーセンターの海外展開の支援力を高め、販路開拓や海外クラスターとの連携を積極的に進めるなど、世界展開に向けた取組を充実する。

### 【数値指標】

項目	平成 23～ 25 年度	平成 26～ 29 年度	平成 23～ 32 年度
新たに医療健康関連の製品（部品・部材を含む）・技術を海外に販売した地域内の企業数（累計）	3 社 5 社	7 社	17 社
ISO 13485 新規取得企業数	—	8 社	14 社
製品等の紹介ホームページの閲覧件数（ページビュー）	10,000 件/年 8,857 件/年	15,000 件/年	30,000 件/年

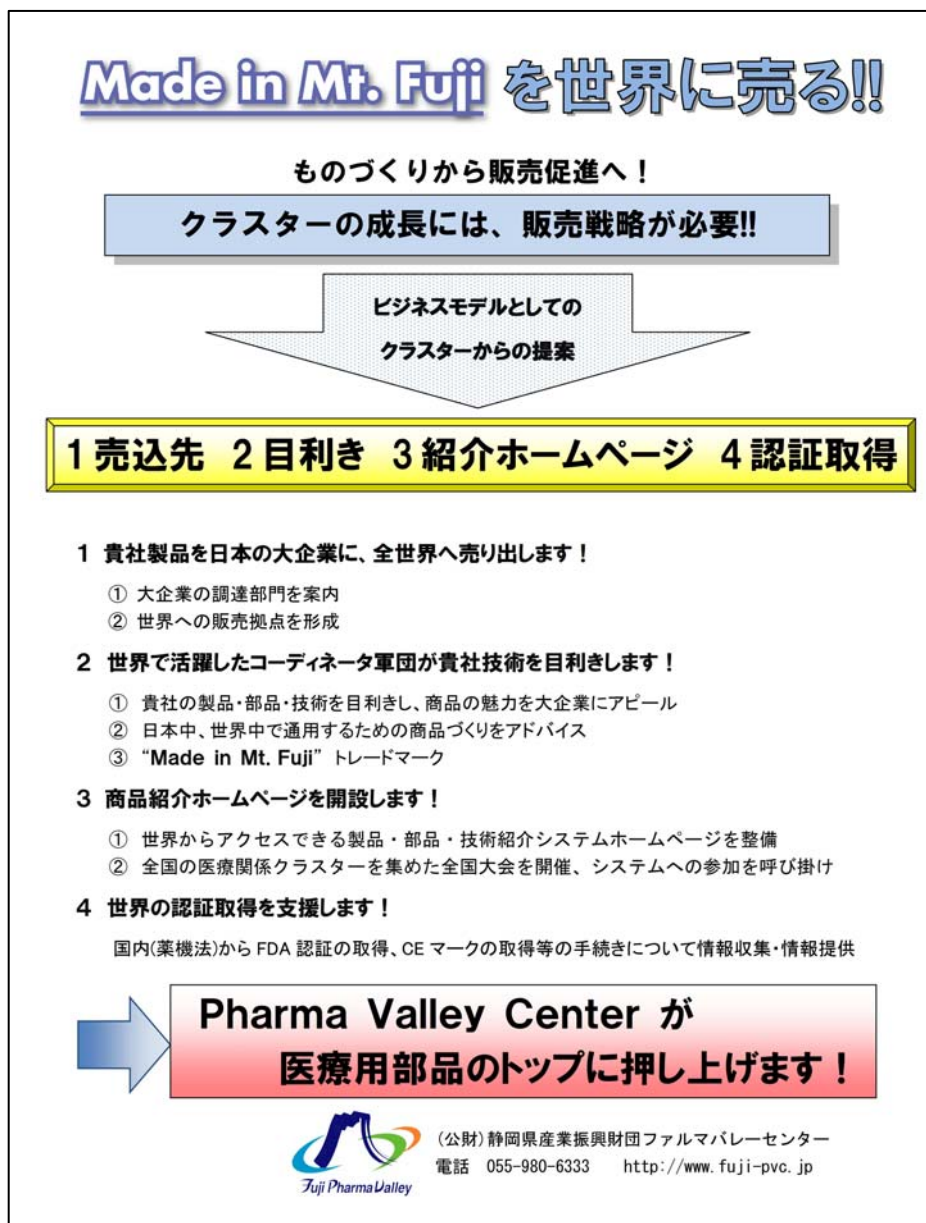
平成 23 年度～25 年度は、上段が目標数値、下段が実績数値

## 【戦術】

### ○戦術1 世界展開に向けた取組の充実

プロジェクトの先駆性を世界に向けて発信するとともに、国際競争力強化地域として、地域企業によるアジア市場などの海外展開のための戦略的で魅力的な商品（“Made in Mt. Fuji” マーク）づくりや国際標準の品質管理に基づく製造環境の整備について支援します。

また、ファルマバレーセンターの組織体制の充実など、世界に向けて展開するための体制の充実を図り、市場調査や情報収集、地域企業の製品・企業情報の発信、海外展示会への出展など、地域企業の海外での販路開拓のための支援を行うとともに、海外クラスターとの連携を充実し、相乗的な効果による製品化・事業化を促進することにより、プロジェクトから生まれた製品、システムやノウハウを世界に広げます。





## 4 推進方針

### (1) 推進体制の充実

効率的かつ効果的に計画を推進するため、これまで構築した産学官金のネットワークを充実するとともに、新拠点施設を活用し、地域企業を支援するプラットフォームについて、入居するリーディングパートナー、特許事務所、第三者認証機関等の参画や、金融機関の支援の拡大等により強化し、推進体制を更に強化します。

また、ファルマバレーセンターがプロジェクトの中核支援機関として、新拠点施設を活用したプロジェクト全体の牽引者としての機能を持続的に発揮できるよう、コーディネート力や国際展開力等に優れた人材の配置など、組織体制の充実を図ります。

### (2) 広報活動の充実

世界レベルの研究開発の成果をはじめ、企業を育て成功に導く強力なサポート体制、優れた製品（部品・部材を含む）・技術を有する地域企業の集積、質の高い医療人材養成システムなど、“ファルマバレー”の持つ魅力を世界に向けて発信します。

### (3) 弾力的な推進

社会経済環境の変化を的確にとらえるとともに、計画の進捗状況等に応じて、計画される施策、事業の内容や進め方等は必要な都度見直すものとし、戦略計画の弾力的な推進に努めます。

#### 【計画期間】

第3次戦略計画は、静岡県総合計画の計画期間との整合を図り、今後10年間（平成23年度～32年度）を見据えたものとし、ホップ、ステップ、ジャンプで実現していくため、事業の進捗状況を毎年検証するとともに、3年ごとに中間評価を実施します。中間評価は、第1回を平成26年度に行い、第2回は平成29年度に行う予定です。

## ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画 構成概要

### ■基本理念

世界一の健康長寿県の形成

「健康増進・疾病克服」と「県民の経済基盤の確立」を両輪として施策を推進

### ■ファルマバレー宣言

『私たちは、患者・家族の視点に立ち、  
叡智を育み結集し、  
共に病と闘い支えあい、  
健康社会の実現に貢献することを宣言します。』

### ■基本方向

“ものづくり”、“ひとづくり”、“まちづくり”、“世界展開”の4つの視点から、富士山麓において、医療機関を中心とした「**医療健康産業クラスターの形成**」を図る。

【ファルマバレーの10年後の姿】

○ものづくり

医療健康産業を中心とした産業構造に転換し、地域企業が元気になる。地域経済の持続的な発展がなされている。

○ひとづくり

患者・家族が満足できる質の高い医療サービスや、専門性の高い医療技術を提供し、真に医療現場が必要とする製品を創出する優秀な人材がこの地域で活躍している。

○まちづくり

健康サービスが充実するとともに、高次都市機能が集積し、住む人も訪れる人も快適な魅力ある都市圏が形成されている。

○世界展開

世界の基準を考慮した製品開発を行う地域企業が増大し、“Made in Mt. Fuji”の製品や仕組みが世界に広く行き渡っている。

### ■推進方針

(1) 推進体制の充実

産学官金のネットワークの充実、地域企業支援体制の強化、ファルマバレーセンターの充実

(2) 広報活動の充実

“ファルマバレー”の魅力を世界に向けて発信

(3) 弾力的な推進

計画は、必要な都度見直し、弾力的に推進

【計画期間】

静岡県総合計画の計画期間との整合を図り、今後10年間を見据えたプロジェクトとし、事業の進捗状況を毎年検証するとともに、3年ごとに中間評価を実施。

### ■戦略・戦術ごとの具体的な展開

戦略	戦術	重点施策
<b>戦略1</b> ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”	1 研究開発の推進 2 地域企業の参入・成長支援	◎ テーマの重点化による開発の推進 ◎ 交流機会の拡大(ブレイクストーム等の活性化) ◎ 地域企業、ベンチャー企業の参入支援 ◎ 販売促進(県内機関等への働き掛けと販社ネットワーク形成)
<b>戦略2</b> 医療と産業を担う“ひとづくり”	1 質の高い医療人材の育成と研修システムの充実 2 医療現場のニーズを事業化する産業人材の育成	◎ 目利きに優れる産業支援人材の育成 ◎ 高度な産業人材の育成
<b>戦略3</b> 健康サービスが充実し、高次都市機能が集積した“まちづくり”	1 医療健康分野の産業集積 2 健康をテーマとした地域づくり 3 人が集まる地域づくり	◎ 企業誘致及び定着のための取組の強化 ◎ 地域企業と大企業とのサプライチェーン(川上川下)構築 ◎ 医療健康サービス等のクラスター形成
<b>戦略4</b> 世界展開の推進	1 世界展開に向けた取組の充実	◎ プロジェクトの先駆性の発信 ◎ 海外・アジア市場への戦略的商品開発への支援 ◎ 世界標準の商品開発への支援(ISO13485等) ◎ ファルマバレーセンターの海外展開支援体制の強化

### 【数値指標】

○戦略1

- ・共同研究実施件数
- ・医薬品開発件数
- ・新規治験実施件数
- ・がん領域の臨床研究支援開始件数
- ・事業化・製品化件数
- ・医薬品・医療機器合計生産金額
- ・医薬品・医療機器新規許可事業所数等

○戦略2

- ・専門看護師・認定看護師新規取得者数
- ・産業人材の育成人数

○戦略3

- ・企業立地件数
- ・都市機能が充足していると感じている人の割合

○戦略4

- ・医療健康関連製品等を海外販売した地域内企業数
- ・ISO13485新規取得企業数
- ・製品等紹介ホームページの閲覧件数

## 参考1 戦略・戦術ごとの具体的な展開

### 戦略1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”

#### 戦術1 研究開発の推進

展開の内容	所管部署
<p>◎1 テーマの重点化による開発の推進</p> <p>①プロジェクトHOPEによる治療薬・診断薬の開発促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチオミクス解析による癌の遺伝的特性の収集と個別化医療への応用の推進</li> <li>・成果を用いた分子標的薬、バイオマーカー、診断薬等の開発促進</li> </ul> <p>②ロボット（医療・生活支援ロボットの機能性部品等）の開発促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大企業と連携した手術支援ロボットの開発促進</li> <li>・地域企業によるロボットの機能性部品の開発促進</li> </ul> <p>③医療機器・部品部材（生体適合素材、ソフトウェア等）の開発促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チタン等生体適合素材、その他新素材（紙、炭素素材等）を用いた製品の開発促進</li> <li>・医療用ソフトウェアの開発促進</li> <li>・大手企業と連携した革新的がん診断装置・治療装置の開発促進</li> </ul>	<p>【実施主体】 静岡がんセンター</p> <p>【県担当課】 新産業集積課</p>
<p>◎2 交流機会の拡大（ブレインストーミング等の活性化）</p> <p>①新拠点施設での交流サロンの運営</p> <p>②コーディネータ、ラボマネージャーによるマッチングの推進</p>	<p>【実施主体】 PVC<sup>5</sup></p> <p>【県担当課】 新産業集積課</p>
<p>3 トランスレーショナルリサーチの推進</p> <p>①静岡がんセンターを中心とした研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腫瘍マーカー探索技術の活用による腫瘍マーカー候補物質を用いた製品化及びバイオマーカーの開発</li> <li>・“完全ヒト型モノクローナル抗体”の作成技術を活用した抗がん剤、感染症治療薬の開発</li> <li>・国立遺伝学研究所、静岡県立大学、日本大学、東海大学、沼津工業高等専門学校、県工業技術研究所・工業技術支援センターとの研究開発の交流・連携の一層の充実</li> <li>・連携協定大学（東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学、慶應義塾大学）との医看工連携共同研究の推進</li> </ul> <p>②創薬・診断薬開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創薬プラットフォーム（化合物ライブラリー）を用いた多様な企業、大学、研究機関と連携した医薬品の開発促進</li> </ul> <p>③治験・臨床研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡がんセンターの治験システムの充実・強化による治験・臨床研究の推進</li> <li>・静岡県治験ネットワークを活用した治験・臨床研究の推進</li> </ul>	<p>【実施主体】 静岡がんセンター PVC 県立大学 環境衛生科学研究所</p> <p>【県担当課】 新産業集積課 薬事課</p>
<p>4 ニッチ技術の開発</p> <p>①ファルマバレーセンターによるニッチ技術の開発支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療現場や在宅医療現場のニーズ収集及び企業とのマッチングシステムに基づく地域企業の開発に対する支援</li> </ul>	<p>【実施主体】 PVC</p> <p>【県担当】 新産業集積課 研究調整課</p>
<p>5 大手企業との連携による製品開発</p> <p>①静岡がんセンターによる大手企業と連携した革新的ながん診断装置や治療装置の開発推進 （画像診断支援ロボット、陽子線治療装置、皮膚がん診断装置、手術支援ロボット等）</p>	<p>【実施主体】 静岡がんセンター</p> <p>【県担当】 新産業集積課</p>

◎は重点施策

## 戦術2 地域企業の参入・成長支援

展開の内容	所管部署
<p><b>◎1 地域企業、ベンチャー企業の参入支援</b></p> <p>①新拠点施設での地域企業支援体制（プラットフォーム）の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファルマバレーセンターのコーディネート力、マネジメント力の強化（ラボマネージャーの配置等）</li> <li>・リーディングパートナー、特許事務所、コンサルタント等の入居による支援体制構築</li> </ul> <p>②異業種参入・第二創業のための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸別訪問による参入可能性のある企業の発掘</li> <li>・後発医療機器製造分野への参入促進</li> <li>・複数の企業の組み合わせによる高度なサプライヤー（共同受注体等）の形成</li> <li>・医療分野への参入促進のためのセミナーの開催</li> <li>・地域別研究会等の活動支援</li> </ul> <p>③既存企業の規模拡大のための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域企業と医療者とのコンソーシアムの形成支援</li> <li>・新拠点施設での開発生産施設（レンタル工場）、研究開発施設（レンタルラボ）の提供</li> <li>・大手製薬、医療機器メーカーへの部品部材供給及び受注獲得支援</li> <li>・共用検査機器等を活用する仕組み構築（新拠点施設の共用検査室の活用、工業技術研究所、沼津工業高等専門学校等との連携強化）</li> </ul> <p>④起業、ベンチャー企業の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトから生まれた有望な成果（プロジェクト HOPE の成果等）を基にした個別サポートによる起業促進</li> <li>・起業に関する個別相談・指導の実施</li> <li>・インキュベーションセンター、新拠点施設での研究開発施設（レンタルラボ等）の提供</li> <li>・金融機関、投資家等との連携促進</li> </ul>	<p><b>【実施主体】</b> PVC <b>【県担当課】</b> 新産業集積課 商工振興課</p>
<p><b>◎2 販売促進（県内機関等への働き掛けと販社ネットワーク形成）</b></p> <p>①県内医療機関への使用促進に向けた働き掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡県治験ネットワーク病院など、県内医療機関等での展示会の開催、試供品提供への支援</li> </ul> <p>②販社等とのネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネータ等による医療機関、販社とのネットワーク構築</li> <li>・大企業等とのマッチング支援（紹介冊子活用、企業内展示会の開催等）</li> </ul>	<p><b>【実施主体】</b> PVC <b>【県担当課】</b> 新産業集積課</p>

◎は重点施策

<sup>5</sup> PVC：ファルマバレーセンター

## 戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”

### 戦術1 質の高い医療人材の育成と研修システムの充実

展開の内容	所管部署
1 質の高い医療従事者の育成 ①医師、コ・メディカルスタッフの育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジデント制度による医師、コ・メディカルの育成</li> <li>・認定看護師養成課程による育成</li> <li>・連携大学院制度の活用（慶應義塾大学、大阪大学との連携）</li> <li>・看護師・歯科衛生士等の養成機関の整備及び看護師養成所の運営への支援</li> </ul> ②医師、コ・メディカルの確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療系大学等の設置の検討</li> <li>・潜在看護師の再就業の支援</li> </ul>	<b>【実施主体】</b> 静岡がんセンター <b>【県担当課】</b> 地域医療課 疾病対策課 新産業集積課
2 大学と連携した健康関連人材の育成 ①トレーニング指導者の育成	<b>【実施主体】</b> 健康増進課
3 新しい医療連携システムによる人材育成 ①多職種チーム医療の取組を活用した医療者の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種チーム医療の取組を活用した研修の実施</li> </ul> ②患者・家族への情報提供（処方） <ul style="list-style-type: none"> <li>・「がんよろず相談所」、「Web版がんよろず相談Q&amp;A」、「情報イーゼル」等による患者・家族への情報提供</li> </ul>	<b>【実施主体】</b> 静岡がんセンター <b>【県担当課】</b> 新産業集積課 地域医療課 疾病対策課

### 戦術2 医療現場のニーズを事業化する産業人材の育成

展開の内容	所管部署
<b>◎1 目利きに優れる産業支援人材の育成</b> ①ニーズとシーズを熟知したコーディネータ等の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業OB、スピンアウトした若手人材を活用した産業化コーディネータ等の育成</li> </ul> ②コーディネータネットワークの形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネータネットワーク会議による支援ノウハウ、企業情報等の交換・共有化</li> </ul>	<b>【実施主体】</b> 静岡県産業振興財団 <b>【県担当課】</b> 新産業集積課 商工振興課
<b>◎2 高度な産業人材の育成</b> ①高度な技術者の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・沼津工業高等専門学校が行う「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」、医療福祉機器開発工学コースによる医用機器開発に精通する技術者の養成への支援</li> <li>・医療健康産業参入に必要な知識習得のためのセミナー開催</li> </ul> ②専門分野に通じた経営者、スペシャリスト等の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術と経営の両面からのマネジメントを習得する経営者向けセミナー（MOT講座）の開催</li> <li>・薬事関連法令、品質管理システム、マーケティング等に関するセミナーの開催</li> <li>・知財に精通した者の育成・配置</li> <li>・開発等における女性の積極的活用の促進</li> </ul>	<b>【実施主体】</b> PVC <b>【県担当課】</b> 新産業集積課

展開の内容	所管部署
<p>3 高度な研究人材の育成</p> <p>①医看工連携協定に基づく研究者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携協定大学との共同研究の実施とがんセンター研究所での受入研究者の育成</li> </ul> <p>②県立大学創薬探索センターでの研究者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立大学創薬探索センターでの研究を通じた創薬科学教育の実施</li> </ul> <p>③医療現場を活用した企業研究者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業研究者育成のための医療現場の提供 (共同研究企業の技術者の育成医療現場への立入りを通じた育成)</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>P V C 県立大学 静岡がんセンター</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課 大学課</p>
<p>4 学校教育における産業人材の育成</p> <p>①教育委員会と連携した産業人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中・高校生への職業講話・職場見学・体験等のキャリア教育の実施</li> <li>・高校生の科学への興味関心を高める高校生アカデミックチャレンジ事業の実施</li> <li>・医学部進学希望者への医療現場見学や医療者と接する機会の提供</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>高校教育課 地域医療課 新産業集積課</p>

◎は重点施策



### 戦略3 健康サービスが充実し、高次都市機能が集積した“まちづくり”

#### 戦術1 医療健康分野の産業集積

展開の内容	所管部署
<p>◎1 企業誘致及び定着のための取組の強化</p> <p>① 県・市町が連携した企業誘致、流出防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業訪問、産業見学会等による立地優位性のPR</li> <li>・組織横断的なワンストップの相談・助言の実施</li> <li>・誘致支援策の積極的活用</li> <li>・災害リスク軽減のための防災対策の強化、BCP等策定企業への支援</li> </ul> <p>② 「内陸のフロンティア」を拓く取組の一環として、企業のニーズや要望に応じた工業用地の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーダーメイド方式及びレディーメイド方式による工業用地の整備</li> </ul> <p>③ 高規格幹線道路の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新東名高速道路、伊豆縦貫自動車道等の高規格幹線道路の早期完成に向けた働きかけ</li> </ul>	<p>【実施主体】 県庁 PVC</p> <p>【県担当課】 企業立地推進課 企業局事業課 道路企画課 地域政策課</p>
<p>◎2 地域企業と大企業とのサプライチェーン（川上川下）構築</p> <p>① 大手企業への情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子（ふじのくにの宝物）による企業紹介</li> </ul> <p>② マッチング機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業内展示会の開催</li> </ul> <p>③ 中小企業のグループ化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共同受注体等の設立支援</li> </ul>	<p>【実施主体】 PVC</p> <p>【県担当課】 新産業集積課 経営支援課</p>
<p>◎3 医療健康サービス等のクラスター形成</p> <p>① 健康サービス産業の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町と連携したかかりつけ湯協議会による癒し・健康プログラムの商品化への支援</li> <li>・東部地域スポーツ産業振興協議会と協力したスポーツ関連のサービス、新製品の開発促進</li> </ul> <p>② 豊富な農林水産物などを活用した産業振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香りのサイエンスに基づく地域資源の香気成分等を活用した製品開発や病臭低減の研究の推進</li> <li>・機能性食品開発を推進するフーズ・サイエンスヒルズプロジェクトに対するファルマバレーセンターのコーディネータの支援</li> </ul>	<p>【実施主体】 静岡がんセンター 県庁</p> <p>【県担当課】 商工振興課 新産業集積課</p>
<p>4 起業を目指す若者等が流入する環境の整備</p> <p>① 起業、ベンチャー企業の支援（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトから生まれた有望な成果（プロジェクトHOPEの成果等）を基にした個別サポートによる起業促進</li> <li>・起業に関する個別相談・指導の実施</li> <li>・インキュベーションセンター、新拠点施設のレンタルラボ等の研究開発の場の提供</li> <li>・金融機関、投資家等との連携促進</li> </ul>	<p>【実施主体】 PVC</p> <p>【県担当課】 新産業集積課</p>

◎は重点施策

## 戦術2 健康をテーマとした地域づくり

展開の内容	所管部署
<p>1 特色ある健康サービスによる癒しの提供</p> <p>①健康サービスや癒しを提供する取組への支援(健康サービス産業の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町と連携したかかりつけ湯協議会による癒し・健康プログラムの商品化への支援(再掲)</li> <li>・東部地域スポーツ産業振興協議会と協力したスポーツ関連のサービス、新製品の開発促進</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>PVC 県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課 観光政策課 観光振興課 健康増進課 商工振興課</p>
<p>2 地域の食材や食文化を活用した地域づくり</p> <p>①食をテーマとする商品造成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域食材を活用した健康メニューの開発と食をテーマとする旅行商品づくりの促進</li> </ul> <p>②「食の都」づくりの推進</p> <p>③食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふじのくに食育推進計画」に基づく望ましい食生活実践や食に関する知識等の啓発</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>観光政策課 観光振興課 マーケティング推進課 健康増進課</p>
<p>3 健康づくりプログラムの普及</p> <p>①健康づくりプログラムの作成・普及への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ湯協議会による健康づくりプログラム及びその商品づくりへの支援</li> <li>・市町等と連携した「プロジェクトHOPE」の成果等による科学的アプローチの健康プログラムづくりの推進</li> <li>・「第3次ふじのくに健康増進計画」に基づき、地域資源を活用し「健康長寿の都」づくりを推進</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>新産業集積課 観光振興課 健康増進課</p>

## 戦術3 人が集まる地域づくり

展開の内容	所管部署
<p>1 コンベンション施設等の活用</p> <p>①コンベンション施設等を活用したMICEの誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡県東部地域コンベンションビューロー等と連携した医療健康等の国際会議、展示会、見本市等の誘致の促進</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>観光政策課 観光振興課</p>
<p>2 地域文化の振興</p> <p>①地域文化の振興と芸術発表の場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界文化遺産登録の富士山の保全・活用と富士山の日の普及</li> <li>・伊豆文学フェスティバルの開催</li> <li>・文化・芸術の発表・鑑賞の場の提供や創作の充実</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>文化政策課 富士山世界遺産課</p>

## 戦略4 世界展開の推進

### 戦術1 世界展開に向けた取組の充実

展開の内容	所管部署
<p>◎1 プロジェクトの先駆性の発信</p> <p>①プロジェクトの先駆的取組の海外への発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県海外駐在員事務所等と連携した情報発信</li> <li>・プロジェクトの海外紹介HPの充実</li> <li>・静岡がん会議等を通じた情報発信</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>新産業集積課 疾病対策課</p>
<p>◎2 海外・アジア市場への戦略的商品開発への支援</p> <p>①アジア向け戦略的商品開発への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人及びアジアの人に適したインプラント等の開発促進</li> <li>・輸入製品の代替商品の開発促進</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>PVC</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課</p>
<p>◎3 世界標準の商品開発への支援</p> <p>①国際標準の品質管理システムの整備支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PVC等による中小企業の国際標準の品質管理システム（ISO 13485）及び国内の品質管理システム（QMS）整備に対する助言・指導</li> <li>・リーディングパートナー等と連携した品質管理セミナーの開催</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>PVC</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課</p>
<p>◎4 ファルマバレーセンターの海外展開支援体制の強化</p> <p>①海外展開支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際技術動向調査ユニットの活動の強化</li> <li>・リーディングパートナー等との協力による支援体制の充実</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>PVC</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課 薬事課</p>
<p>5 地域企業の販路開拓に向けた取組支援</p> <p>①海外市場の情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認証（FDA、CEマーク）情報、市場情報の収集</li> </ul> <p>②製品・企業情報の発信と販路開拓支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の大企業の調達部門への紹介と海外展示会への出展</li> <li>・世界中からアクセスできる製品等の紹介ページの充実</li> <li>・地域企業の認証取得の支援</li> </ul> <p>③地域企業の海外展開力向上のための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の商習慣対応や言語力向上のための支援</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>PVC</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課</p>
<p>6 国内外のクラスターとの連携・充実</p> <p>①海外クラスターとの交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルギー・スウェーデン、フランス（パリ、トゥールーズ、ナントのクラスター）、米国、中国、韓国等の海外クラスターとの交流の推進</li> </ul> <p>②海外クラスターとの事業化に向けた連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディコンバレー（ルンド大学）等との開発・製品化に関する研究の推進</li> </ul>	<p>【実施主体】</p> <p>新産業集積課</p>

◎は重点施策

## 参考 2

### ○ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画検討委員会委員

戦略計画策定時

(五十音順、敬称略)

氏名	職名	備考
赤池 敏宏	東京工業大学大学院 卓越教授	
宇田 倭玖子	THE OKAMI 会長 天城湯ヶ島「白壁荘」 女将	
大坪 檀	静岡産業大学 学長	
大野 ゆう子	大阪大学大学院 教授	
加藤 久豊	富士フィルムメディカル株式会社 取締役会長	
木苗 直秀	静岡県立大学 学長	
小原 雄治	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 理事 兼 国立遺伝学研究所 所長	
佐藤 三武朗	日本大学 国際関係学部長	
竹内 宏	財団法人静岡総合研究機構 理事長	
辻 邦郎	横浜薬科大学 教授	
中嶋 壽志	財団法人静岡経済研究所 専務理事	
西島 昭男	サンフロント21懇話会 (TESS 委員長) 株式会社シード 代表取締役	
廣部 雅昭	東京大学 名誉教授 (元静岡県立大学学長)	
松田 久一	株式会社JMR生活総合研究所 代表取締役	
矢作 恒雄	慶応義塾大学 名誉教授	
山口 建	静岡県立静岡がんセンター 総長	
山崎 達美	中外製薬株式会社 取締役副社長執行役員	
山村 善敬	財団法人しずおか産業創造機構 副理事長	

氏名	職名	備考
稲葉 文章	テルモ株式会社 MEセンター センター長	
大坪 檀	学校法人 新静岡学園 理事長 静岡産業大学 総合研究所所長	
大野 ゆう子	大阪大学大学院 教授	
桂 勲	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 理事 国立遺伝学研究所 所長	
加藤 久豊	富士フイルムメディカル株式会社 前取締役会長	
木苗 直秀	静岡県立大学 学長	
篠原 彰	一般社団法人 静岡県医師会 会長	
竹内 宏	静岡県立大学 グローバル地域センター センター長	
中嶋 壽志	一般財団法人 静岡経済研究所 顧問	
西島 昭男	サンフロント21 懇話会 (TESS 委員長) 株式会社シード 代表取締役	
橋本 正洋	東京工業大学大学院 教授	
廣部 雅昭	東京大学 名誉教授 (元静岡県立大学学長)	
松浦 敏明	公益財団法人 静岡県産業振興財団 副理事長	
松田 久一	株式会社JMR生活総合研究所 代表取締役	
盛田 延之	東海部品工業株式会社 代表取締役	
矢作 恒雄	作新学院大学 副学長・大学院長・教授 慶応義塾大学 名誉教授	
山口 建	静岡県立静岡がんセンター 総長	
山崎 達美	中外製薬株式会社 特別顧問	

## ○ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画検討経過

検討委員会は、下記のとおり3回の会議を開き、今後、対応すべきプロジェクトの内容を検討し、第3次戦略計画（案）をとりまとめました。

- ・ 第1回（平成22年11月5日）  
「富士山麓先端健康産業集積（ファルマバレー）プロジェクト」のこれまでの取組状況について、質疑及び意見交換
- ・ 第2回（平成22年12月24日）  
第3次戦略計画（案）の素案について、質疑及び意見交換
- ・ 第3回（平成23年2月9日）  
第3次戦略計画（案）について、質疑及び意見交換

## ○第3次戦略計画の第1回中間評価及び見直しの検討経過

- ・ 第1回（平成27年1月29日）  
第3次戦略計画の中間評価及び見直しについて、質疑及び意見交換



静岡がんセンター



## 参考 3

### ファルマバレープロジェクト第2次戦略計画評価報告書の概要

#### ○評価の結果（総括）

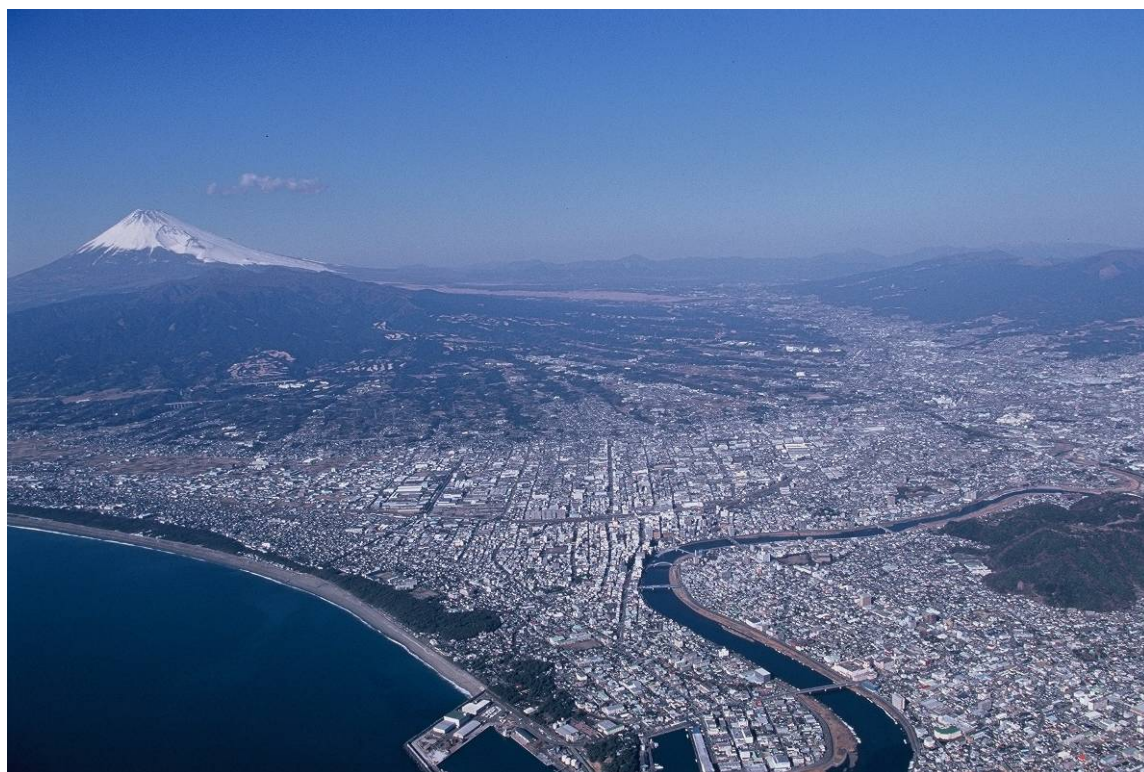
- ・世界トップクラスのがん診療拠点である静岡がんセンターを中心とし、世界的な研究機関や企業、地域企業など幅広い分野の参加者を得て、着実な成果をあげている。
- ・これは、県が戦略を明示してプロジェクトを主導し、地元の自治体が積極的に参加したこと、中核支援機関であるファルマバレーセンターが、医療現場と地域企業を結んだ新製品開発、経営者や高度産業人材の育成などに対する確に支援したことなどによると考えられる。
- ・ファルマバレーセンターのコーディネートにより、医療機器分野に参入する地域企業が相次いでおり、数十億円を超える売上を記録する製品を含め、34もの新製品が誕生している。
- ・静岡がんセンターが病院立で全国初となる認定看護師教育機関となったほか、プロジェクトの進展の中で看護師養成学部が三島市に設置されるなど、今後の地域医療にとって大きな力となることが期待される。
- ・県東部地域の12市町は、このプロジェクトをそれぞれのまちづくりにいかしており、富士山麓に医療・健康で我が国を代表する地域の形成を進めている。
- ・本プロジェクトは、日本の国家戦略の一翼を担うものでもあり、世界に向け開かれた視点を失うべきでなく、平成22年12月のnature誌への掲載は、その姿勢を示すものである。

#### ○第3次戦略計画策定に向けた提言

プロジェクトは、各分野で順調に進んできているが、これらの成果は「種から生まれたばかりの若芽」の状態であり、これを大きく育て、富士山麓に医療・健康の理想郷をつくるために、第3次戦略計画の策定に向けて以下のとおり提言する。

- ・世界トップレベルと評価される静岡がんセンターが実践する先端医療を今後も一層充実し、着実に実施することが必要である。
- ・ものづくりの分野では、現在の取組を一層充実し、より多くの地域企業が医療健康産業に参入して、国内のみならず、海外の市場も視野に入れた経済活動を行うことを期待するとともに、食をテーマに実施されているフーズ・サイエンスヒルズプロジェクト、光技術を医療等に活用するフォトンバレープロジェクトとの連携をより一層深めていくことが重要である。

- ・ひとづくりの分野では、質の高い医療従事者や、医療健康産業で活躍する高度な研究者、技術者の育成施策を充実させるほか、広く外部人材を求めることにも積極的に取り組むべきである。
- ・まちづくりの分野では、住民、市町、県が一丸となって温泉や食材などの地域資源を活用した健康地域づくりに取り組むことを期待する。また、今後早期に、国際学会を開催できる、地域の特色を生かしたコンベンション施設が整備されることを期待する。
- ・プロジェクトにおける取組は、世界の医療や健康に貢献するものであることから、地域における取組に止まらず、海外との連携を一層進めるとともに、県東部で生まれた先進的な取組を世界に普及させることが必要である。
- ・プロジェクトの推進にファルマバレーセンターが果たしてきた役割は非常に大きく、第3次戦略計画を効率的かつ効果的に推進するには、同センターの役割がますます重要であるため、政策の選択と集中を図るとともに、中核支援機関であるファルマバレーセンターの充実・強化を図ることを望む。
- ・これらの取組により、富士山に抱かれた東部地域が、“医療・健康”をキーワードに、住んでよし、訪れてよし、働いてよし、学んでよしの我が国のモデルとなる地域となることを期待する。



ファルマバレーと富士山

## 参考 4

### ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画第1回中間評価の概要

#### 1 評価の実施方法

第3次戦略計画の3年経過時の中間評価については、次の方法により実施した。

##### (1) 自己評価

- ①数値指標の評価
- ②戦略・戦術に係る取組の進捗状況の評価

##### (2) 外部評価

- ①有識者による評価
  - ・ファルマバレープロジェクト勉強会（26年10月）における意見
  - ・ファルマバレープロジェクト関係者と知事との意見交換会（26年12月）における意見
- ②国の評価の活用
  - ・ふじのくに先端医療総合特区の評価

#### 2 評価の概要

- ・プロジェクト開始から12年間を通じ、様々な成果を生み出している。
- ・第3次戦略計画の3カ年を見ると、一部の数値指標に中間時点における未到達があるものの、総じて第1期は、順調に推移している。
- ・一方で、第3次戦略計画開始時には想定されていない新拠点施設整備や「プロジェクトHOPE」等の新たに着手した重要施策もある。
- ・その中で、プロジェクトの進捗を加速し、ステップアップを図る上では、次の課題及びそれに対応した施策の実施が必要であると認識する。

#### 課題認識

課題	概要
基盤的技術等を活用した研究開発における優位性の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな基盤的技術を活用した研究開発であるプロジェクトHOPEが平成26年にスタートし、診断薬、治療薬などの研究開発を加速させ、優位性を確立していく必要がある。</li> <li>・研究開発の更なる加速のため選択と集中を図るとともに、大手企業等との多様な連携を進める必要がある。</li> </ul>
販売の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発製品の販売に苦慮する事例が見られ、受注機会獲得及び販路開拓の強化が必要である</li> </ul>
参入支援及びクラスターの拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスターの集積拡大に向け、地域企業やベンチャー等の新規参入や大手企業との新たな連携などを推進する必要がある。</li> <li>・企業誘致を更に推進する必要がある。</li> </ul>
海外展開の更なる推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト全体の生産額を飛躍的に拡大していくためには、海外（アジア市場等）への戦略的展開及び輸入代替品の開発が必要である。</li> <li>・先駆性を世界に発信し、モデルクラスターとして成長する必要がある。</li> </ul>
新拠点施設の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究開発及び地域支援の新たな拠点施設が開所する中で、新拠点施設を活用し、研究開発の加速や、支援人材育成を含む地域企業支援の強化のための新たな仕組みを構築していく必要がある。</li> </ul>

今後強化する必要がある取組項目（戦略ごと及び推進方針）

戦 略	強化する取組項目
1 “ものづくり”	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマの重点化による開発の推進 （医薬品・ロボット、医療機器・部品部材（生体適合素材等））</li> <li>・ 交流機会の拡大（ブレインストーミング等の活性化）</li> <li>・ 地域企業・ベンチャー企業の参入支援</li> <li>・ 販売促進（県内機関等への働き掛けと販社ネットワーク形成）</li> </ul>
2 “ひとづくり”	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目利きに優れる産業支援人材の育成</li> <li>・ 高度な産業人材の育成</li> </ul>
3 “まちづくり”	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業誘致及び定着のための取組の強化</li> <li>・ 地域企業と大企業とのサプライチェーン（川上・川下）構築</li> <li>・ 医療健康サービス等のクラスター形成</li> </ul>
4 世界展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトの先駆性の発信</li> <li>・ 海外・アジア市場への戦略的商品開発への支援</li> <li>・ 世界標準の商品開発への支援（ISO 13485 等）</li> <li>・ ファルマバレーセンターの海外展開支援体制の強化</li> </ul>

推進方針	強化する取組項目
推進体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファルマバレーセンターの機能強化</li> <li>・ 新拠点施設を活用したプラットフォーム機能の強化 （リーディング企業、特許事務所、コンサルタント等による支援体制強化）</li> <li>・ 金融機関の参画・支援拡充</li> </ul>

## 参考5

### ファルマバレープロジェクトのあゆみ

平成13年2月	富士山麓先端医療産業集積構想(富士山麓ファルマバレー構想)策定(推進期間:平成13~22年度)
平成14年3月	第1次戦略計画策定(計画期間:平成14~18年度)
平成14年9月	静岡がんセンター開院
平成15年4月	ファルマバレーセンター開設
平成15年4月	静岡県治験ネットワーク構築
平成16年4月	県立大学創薬探索センター設置
平成16年4月	都市エリア事業(一般型)に採択(実施期間:平成16~18年度)
平成16年6月	東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学と包括的事業連携協定を締結
平成17年11月	静岡がんセンター研究所(研究棟)開設
平成18年6月	広域的新事業支援ネットワーク拠点重点強化事業に採択(計画期間:平成18~21年度)
平成18年9月	第1次戦略計画評価報告
平成19年3月	第2次戦略計画書策定(計画期間:平成19~22年度)
平成19年3月	都市エリア事業(発展型)に採択(実施期間:平成19~21年度)
平成19年4月	大手分析機器メーカーが、ファルマバレー長泉工業団地で操業開始
平成20年4月	静岡がんセンターが多職種がん専門レジデント制度創設
平成20年8月	静岡がんセンターと世界的製薬企業が、抗がん剤の基礎研究・臨床試験に関わる非独占的包括契約を締結
平成20年11月	静岡がんセンターが認定看護師教育機関に認定(病院立で全国初)
平成21年5月	地域再生人材創出拠点の形成に採択(実施期間:平成21~25年度)
平成22年2月	ファルマバレー訪問団が、仏バイオクラスター・研究所等を訪問
平成22年6月	川上・川下ネットワーク構築事業に採択
平成22年6月	地域イノベーションクラスタープログラムに採択 (実施期間:平成22~24年度)
平成22年6月	東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学との包括的事業連携協定更新
平成22年10月	静岡がんセンターが、世界トップレベルの米国腫瘍放射線治療グループに加盟(国内の放射線治療施設として初)
平成22年11月	モンゴル大統領夫人が静岡がんセンターを視察、夫人が代表を務めるNGOと同センターの間で、がんに関する相互協力の覚書に署名
平成22年12月	総合科学誌 nature に掲載
平成22年12月	第2次戦略計画評価報告
平成22年12月	慶應義塾大学と包括的事業連携協定締結
平成23年3月	第3次戦略計画書策定(計画期間:平成23~32年度)
平成23年12月	ふじのくに先端医療総合特区に指定
平成25年7月	地域イノベーション推進地域(国際競争力強化地域)に指定
平成26年7月	東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学との包括的事業連携協定更新